

ヘアリーベッチを利用した不耕起生草マルチ水稻移植栽培 について第4報

水稻移植前におけるヘアリーベッチの草量および雑草量

誌名	九州農業研究
ISSN	04511581
著者名	大脇,淳一 佐田,利行 山中,勝浩
発行元	九州農業試験研究機関協議会
巻/号	67号
巻号補足	
掲載ページ	p. 11-11
発行年月	2005年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ヘアリーベッチを利用した不耕起生草マルチ水稻移植栽培について 第4報 水稻移植前におけるヘアリーベッチの草量および雑草量

大脇淳一・佐田利行・山中勝浩¹⁾(長崎県総合農林試験場・¹⁾ 島原農業改良普及センター)

Junichi Oowaki, Toshiyuki Sata and Masahiro Yamanaka :

Non-tillage Rice Transplanting Cultivation of Live Mulching the use of hairy vetch

4. The Yield of Hairy Vetch and Weed Growth before the Rice Transplanting Date

前報¹⁾²⁾³⁾においてヘアリーベッチの水稻移植後の抑草効果、肥料代替効果、田植機開発について報告した。この栽培では安定した草量確保が不可欠であり、水稻移植前のヘアリーベッチの草量および雑草乾物量の推移を検討した。

1. 材料および方法

試験は2000年から2004年に場内試験田で実施した。水稻作の前年11月中旬に耕起し、緑肥作物ヘアリーベッチを播種(0.4kg/a)した。草量および雑草量は4月中旬から水稻移植直前の6月中旬にかけて調査した。播種時期別試験では2003年10月中旬から2004年3月中旬に7回に分けて播種した。草量および雑草量は6月中旬に調査した。

2. 結果および考察

1) 連作試験

前年11月中旬播種の緑肥草量(生草+枯草)は6月初旬以降40kg/a以上で推移した(第1図)。草量(生草)のピークは5月中旬で、レンゲより半月程遅かった(第2図)。水稻移植前の雑草は5月中旬以降、皆無に近くヘアリーベッチの高い抑草効果が認められた(第3図)。連作3年目以降はカズノコグサ等が一部残った(データ省略)。

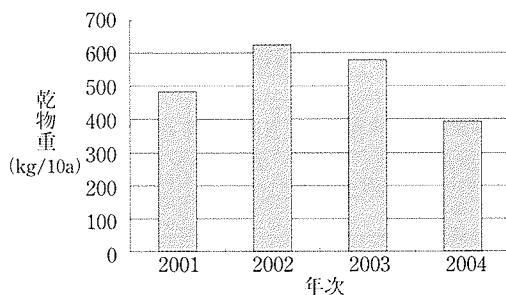
2) 播種時期別試験

ヘアリーベッチ草量は、11月中旬播種区まで高く推移し、それ以降少なくなった(第4図)。無処理区(無播種)でみられたヘアリーベッチは、試験圃場が連作圃場であり、再生産されたと推察された(第4図)。雑草量は11月中旬播種で最も少なくなり、それ以降播種時期が遅くなるほど多い傾向を示した(第5図)。主な雑草の草種はノミノフスマおよびカズノコグサであった(第5図)。

以上のことから、ヘアリーベッチは雑草抑制の年次推移からみて4年連作が可能であり、草量および雑草量の播種時期別推移から11月中旬播種が良好と考えられる。

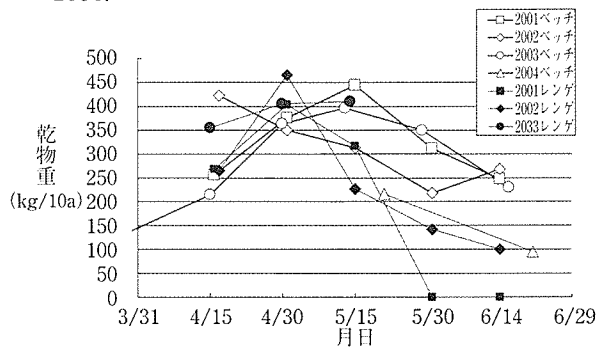
引用文献

- 1) 寺井利久・大脇淳一・山中勝浩：九農研 65, 16, 2003.

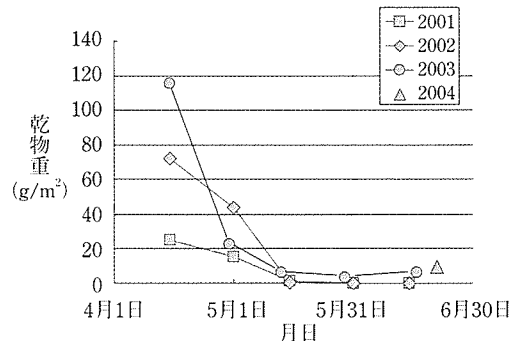


第1図 ヘアリーベッチ草量(生草+枯草)の推移

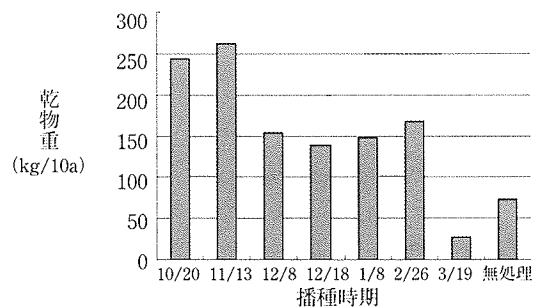
- 2) 寺井利久・大脇淳一・山中勝浩：九農研 65, 17, 2003.
- 3) 大脇淳一・佐田利行・山中勝浩：九農研 66, 4, 2004.



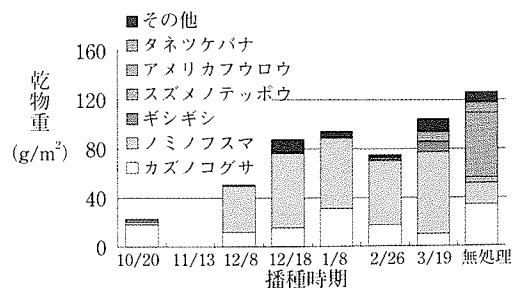
第2図 レンゲおよびベッチ草量(生草)



第3図 ベッチ区における雑草の推移(調査6月中旬)



第4図 播種時期別ベッチ草量の推移(2004. 6. 21)



第5図 播種時期別雑草量(2004. 6. 21)